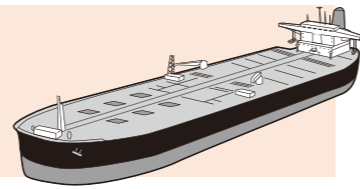


東洋紡が利用拡大計画を表明 敦賀港のさらなる利活用を目指す



大型クレーンを使ったデモンストレーション

地元企業の「東洋紡敦賀事業所」が敦賀港の利用拡大を表明したのを受け、同港のさらなる利活用促進と航路の安定化を目指し、敦賀港貿易振興会（会長：河瀬市長）は、11月11日に、川崎・松栄岸壁で「敦賀港利用拡大推進式典」を開催しました。

式典では、河瀬市長や西川知事らが今後の利活用促進を誓い、その後、同事業所による利用計画の説明や、大型クレーンを使ったデモンストレーションが行われ、地元企業の同港利用を祝いました。

同事業所は、敦賀港利用のメリットとして、これまで利用していた神戸、大阪港までのトラック輸送が不要となることによる物流コストの削減やCO₂排出量削減のほか、地元企業として敦賀港活性化への協力による地域経済の発展を期待しています。計画では、2012年度に、昨年度の敦賀港利用実績の約10倍にあたる31,000トンの輸出入を予定しています。

3月2日、 レジ袋が有料化へ



推進協議会の初会合の様子

レジ袋を削減しマイバッグ持参率アップを目指す「敦賀市レジ袋削減推進協議会」が10月31日に発足し、初会合が市役所で行われました。同協議会は、市内のスーパー、ドラッグストアや市民団体などで構成され、発足前から意見交換を重ねてきました。初会合では、レジ袋の一斉有料化を確認し、開始日を来年3月2日に決定しました。市内では県民生活共同組合「ハーツつるが」がすでに有料化を実施しており、今回の決定で計8業者14店となります。**（参加協力店の募集は16P参照）**

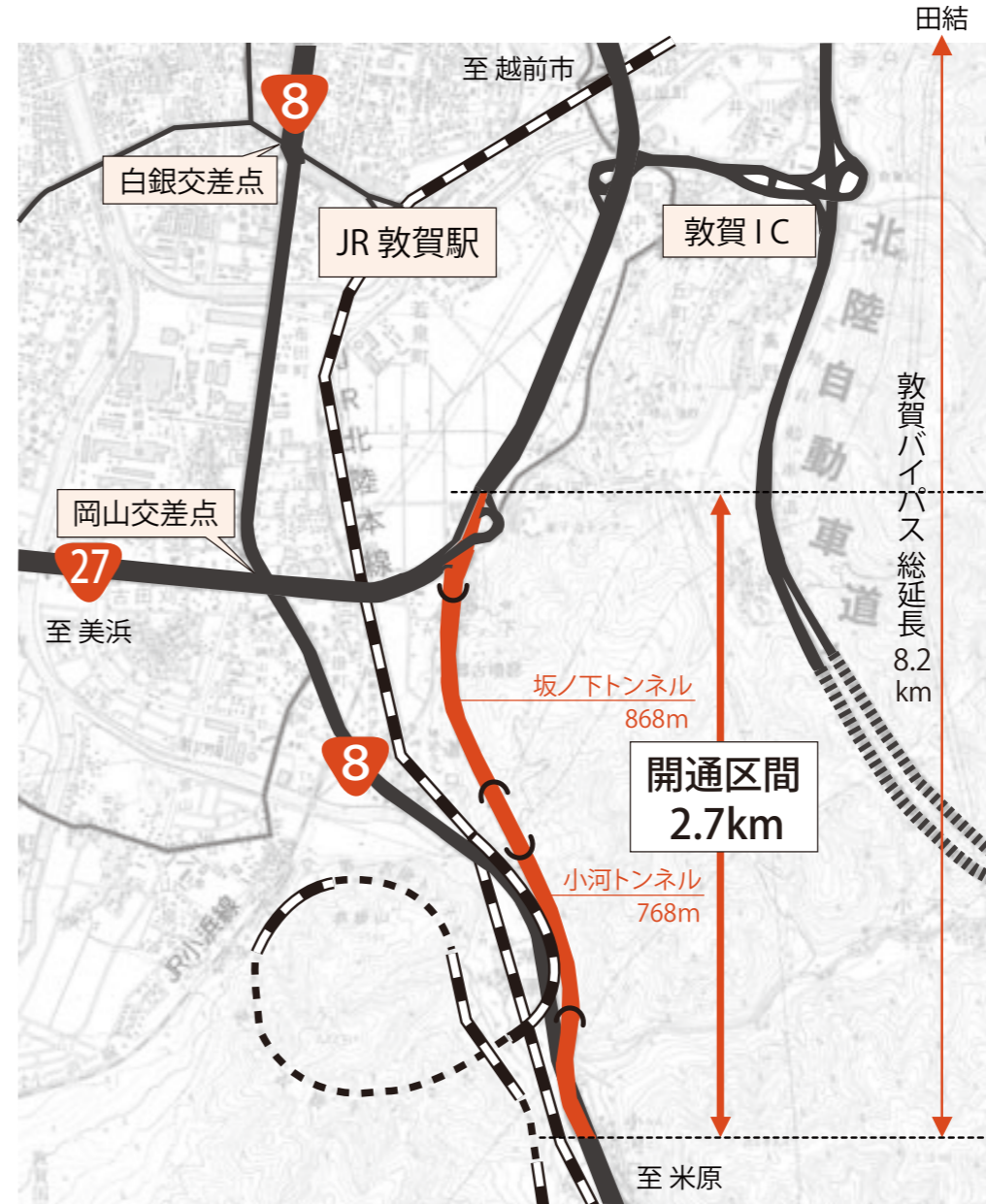
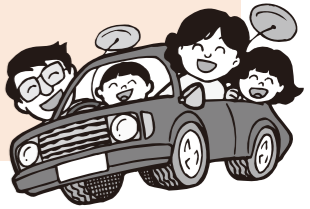
「氣比宮社記」が 市の有形文化財に指定



氣比宮社記

氣比神宮の歴史を記した「氣比宮社記」が、市の有形文化財に指定されました。同社記は9巻からなり、同神宮の歴史や年中行事、敦賀一帯の神社の位置付け、今はない南北朝時代の旧社記の内容など、4部構成でまとめられています。作者は、氣比神宮の神官だった平松周家で、江戸時代中期の1761年に完成させました。今回の指定で、市の指定文化財は計145件（有形101件、無形民俗4件、記念物40件）となり、国、県の指定文化財も合わせて計188件となりました。

渋滞緩和、騒音軽減へ 国道8号敦賀バイパスが全線開通



坂下側



小河口側



開通を祝うテープカット

国道8号敦賀バイパス（田結～小河口間・延長8.2km）のうち、未開通だった19工区（坂下～小河口間）が、11月15日の16時に開通しました。これにより、同バイパスは昭和51年度の工事着手以来、18工区（河原町～坂下間）、17工区（田結～河原町間）の開通を経て、32年越しの全線開通となりました。

現在、国道8号の岡山交差点では慢性的な交通渋滞と大型車の運行に伴う騒音も問題となっていました、

今回の開通により、その軽減が期待されています。この日は、同区間内の坂ノ下トンネル前で開通式典が行われ、約150人の関係者らが集まる中、河瀬市長や西川知事らが開通の喜びとバイパスへの期待を述べました。式典の後には、氣比中学校吹奏楽部の演奏の中、中郷西保育園児らとともにテープカットが行われ、同バイパスの完成を祝いました。



1万人目の入館者となった田辺さん(中央)



祝 1万人達成!

11月21日 「人道の港 敦賀ムゼウム」
入館者1万人達成セレモニー

敦賀港に上陸したポーランド孤児やユダヤ人難民などの歴史を紹介している「人道の港 敦賀ムゼウム」の入館者が1万人を迎え、同館で達成セレモニーが行われました。

見事1万人目となったのは、黒河小学校6年生の田辺千尋さん。敦賀の歴史を学ぶ総合学習で見学に訪れていました。花束や記念証などが贈られると、突然の出来事に「びっくりした」ととても驚いた様子でした。

開館から約8カ月での1万人達成に、古江孝治館長は「こんなに早く達成できると思わなかった。もっと広くPRして、たくさんの人に訪れてほしい」と喜びを語りました。

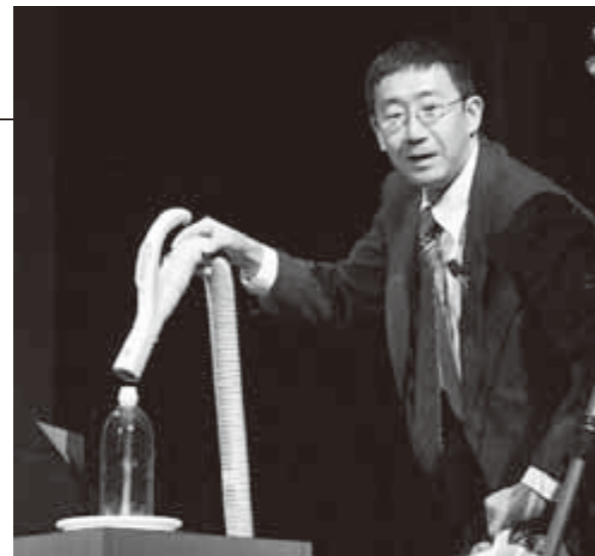


イベント開催の心構えを学ぶ

11月26日 危機管理講演会

突然変化する気象現象のメカニズムを理解し、今後のイベント開催時などに役立ててもらおうと、「危機管理講演会」がきらめきみなと館小ホールで行われました。これは、7月にきらめきフェスティバルの会場で発生した突風事故を受けて市が開催したもので、各地区の区長や学校関係者、イベント取扱団体、一般市民など約160人が参加しました。

講演では、防災科学技術研究所水・土砂防災研究部の真木雅之部長と鈴木真一主任研究員がそれぞれ「局地的な集中豪雨・雷について」「突然発生する竜巻・突風について」のテーマで、気象のメカニズムやその対応策を、実際の実験などを交えながら分かりやすく説明しました。



掃除機やペットボトルなどで、竜巻が発生するメカニズムを説明する鈴木氏



国道8号どう使う?

11月28日 国道8号みちづくり実証実験&百縁笑店街

「国道8号みちづくり実証実験」が28日・29日の両日に行われました。これは、国道8号敦賀バイパスの供用開始に伴い、市中心部の国道8号での交通量減少が予想される中、その道路空間の活用策を検討するために実施したものです。実験では、氣比神宮前交差点内での樹木の設置や縦列駐車の実験、街頭アンケート、歩道橋の利用調査、交通量調査が行われました。

28日には、実験に併せて、百円商品が店頭と並ぶ「百縁笑店街」が神楽・本町1丁目・本町2丁目商店街で行われ、市民らが各店頭で足を止め、オリジナルの商品を買い求めています。



実証実験に併せて行われた百縁笑店街



ホームページ (<http://www.ton21.ne.jp/>) でも公開中!
(ここに載せきれなかったイベントも掲載しています)
あなたが写っていたらご連絡ください。写真を差し上げます。

広報広聴課 ☎22-8112



生産者との会話を楽しむ買い物客



敦賀の野菜は敦賀で消費

11月7・8日 粟野農産物直売会

敦賀の農業の活性化と地場産野菜の地産地消を図ろうと、高岡神社前農村公園(砂流)で粟野農産物直売会が開かれました。この直売会は、市が、粟野地区を中心とした生産者に呼びかけて初めて開いたもので、将来の常設直売所設置を見据えた実証実験と位置付けています。

会場には、2日間とも大勢の市民が訪れ、生産者との会話を楽しみながら地場産の野菜や果物、米などを買い求めていました。



響け! 高らかに敦賀の歌

11月9日 つるが海響コンサート

友好都市・岐阜県各務原市在住の指揮者平光保氏とウィーン岐阜管弦楽団を迎え、市民文化センターでコンサートが行われました。この日演奏された「新興敦賀の歌」は、敦賀ゆかりの詩人久保義治氏と、坂井市出身の作曲家今川節氏が敦賀をテーマに作ったもので、演奏されるのは約50年ぶり。市民ら60人の合唱団がオーケストラとともに力強い歌声を響かせました。

また、敦賀市出身のソプラノ歌手広瀬美和さんの演奏や、市内の小学生による指揮者体験なども行われ、観客たちは楽しいひとときを過ごしました。



市民合唱団とウィーン岐阜管弦楽団の共演



国の名勝を市に寄贈

11月11日 柴田氏庭園寄附贈呈式

国の名勝に指定されている柴田氏庭園(市野々)が、所有者から市に寄附されました。この日は、柴田氏の子孫で当主の柴田一男さんから地権者5人とその家族が市役所を訪れ、河瀬市長に寄附目録を手渡しました。目録を受け取った河瀬市長は「皆さんの宝物を寄附していただき感謝している。今後大切に保存し未永く残していきたい」と謝辞を述べ、寄附者一人ひとりに感謝状を手渡しました。



河瀬市長から感謝状を受け取る柴田さん